

**今日のトピック 日本株にまつわる5つの誤解**
**その1 日本企業は株主還元を消極的では？**

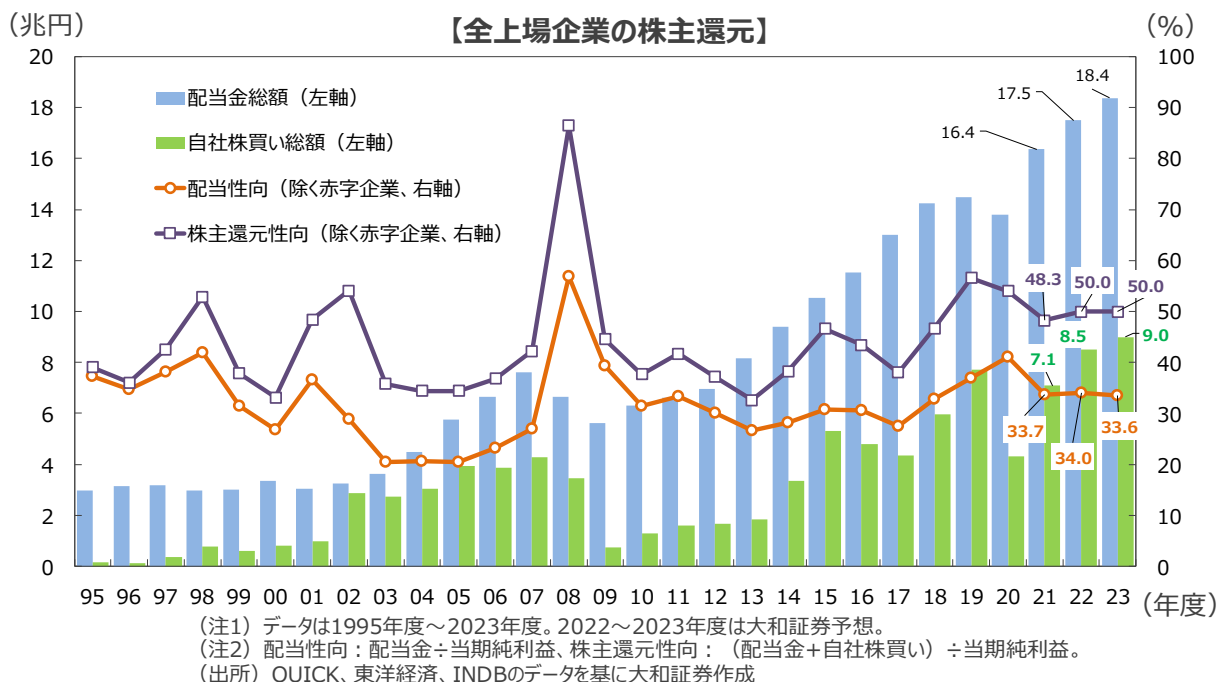
世界的に株式市場の調整が続いていますが、米欧株に対して相対的に日本株の堅調さが目立ちます。今後の日本株の展開はどう見るべきでしょうか。今が買い入れの好機でしょうか？。弊社では今回、5回シリーズで最も身近なリスク資産である日本株に焦点を当て、魅力的な投資対象となりうるか検討したいと思います。特に、見逃されがちな日本企業の変化とその背景、株価への影響などについて見ていきたいと思ひます。

**日本企業は株主還元を消極的では？**

- 株主還元とは配当や自社株買いを指します。日本企業は総じて株主還元を消極的だと指摘されてきましたが、実際は配当も自社株買いも増加傾向を続けています。特に、自社株買いの設定金額は足元で急増しており、22年4-6月は4.4兆円と同期間で過去最高額に達しました。

**配当と自社株買いを積極化、株主還元は過去最高の更新が続く見通し**

- 配当金総額、自社株買いを合わせた株主還元の実施総額は21年度が23.4兆円でしたが、22年度は26.0兆円、23年度は27.4兆円と3年連続で過去最高を更新する見通しです。企業のコーポレートガバナンスが確立され、機関投資家のスチュワードシップコードへの取り組みが強化される中で、日本企業の株主還元意識が一段と高まっています。


**ここも  
チェック!**
**2022年6月6日 「ダークホース」日本株の逆襲**
**2022年6月2日 魅力的なバリュエーションとなった日本株式市場**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。